

紀事論說文例  
久保田梁山著  
中

特 4

473

館藏書目			
函	架	號	冊
二	一	三	三

紀事論說文例中 目錄

紀行門

發昂

晴雨

時令

道路

東省日錄

米澤紀行

山景

水景

作例

作例

一  
二

四  
三

四  
三

五  
三

五  
三

六  
三

南遊雜記

作例

七

亦奇錄

作例

八

温泉

九ヨリ

東省日録

作例

社寺

十

東省日録

作例

十一

南遊雜記

作例

十二ヨリ

野景

村落

十三

峽中紀行

作例

十四

遺跡

十五

峽中紀行

作例

十六

家屋

十七ヨリ

酒宴

没宿

十八

亦奇錄

十九

題跋門

書畫

廿ヨリ卅一マテ

跋白川源戾書

作例

廿六

書蕃山遺墨後

作例

廿七

牧大信歸去來帖跋作例

廿七ヨリ

墨帖

跋史維則大智禪師碑帖作例

廿八

題米庵臨蘓帖後

廿九

題跋通用

卅二

附書忠臣傳後

卅五

書俄羅斯圖志後

卅六

附尺牘叙別採言

卅七ヨリ五十

目錄終

紀事論說文例中

紀行門

梁山行 編  
飯尾次郎閱

發昂 ○晴雨 ○時令 ○道路

發昂

都ハツカケルヲハツカケル發ハツカケル者シニ惟一ハツカケル僕ハツカケル○某ハツカケルヲハツカケル發ハツカケルシハツカケル某ハツカケルヲハツカケル過ハツカケルク

某ノ字ハ地名ヲ記スバシ

○某ハツカケルヲハツカケル出ハツカケルテハツカケル某ハツカケルニハツカケル低ハツカケルルハツカケル○某ハツカケルヲハツカケル經ハツカケルテハツカケル某ハツカケル川ハツカケルヲハツカケル

南折ハツカケルシハツカケルテハツカケル某ハツカケル川ハツカケルヲハツカケル涉ハツカケルルハツカケル○旅ハツカケル装ハツカケルヲハツカケル辨ハツカケルズハツカケル命ハツカケルズハツカケルルハツカケル所ハツカケルノ

車ハツカケルモハツカケル亦ハツカケル至ハツカケル○輿ハツカケル丁ハツカケルヲハツカケル備ハツカケルフハツカケルテハツカケル出ハツカケルツハツカケル

晴雨ハツカケル宿ハツカケル雲ハツカケル解ハツカケル駁ハツカケル殘ハツカケル月ハツカケル天ハツカケルニハツカケル在ハツカケルリハツカケル○曉ハツカケル起ハツカケルテハツカケル窓ハツカケルヲハツカケル開ハツカケルハ

月影地ニ在リ○天  
 美○風一日和煦○天氣明爽○天氣澄和○天氣  
 暖○半晴半陰○微陰○夜暴風雨極ノテ冷ナリ  
 ○雨猶甚タシ○宿雨方ニ霽ル○雨漸ヤク歌ミ  
 雲漸ヤク散ズ○雨始ノテ晴ル○天昏々雨アラ  
 ント欲ス○雨益ク密ニシテ風益ク暴シ○果シ  
 テ雨フル○風雨驟カニ至ル  
 時令春尚寒シテ揚柳未タ萌蘗セズ○春寒肌ヲ  
 栗ス○東風力猶微ニシテ寒威客衣ニ徹ス○薄  
 寒衣ヲ透ス○黃鳥未タ轉ビス○早梅香漸ヤク

動ク○梅唇先ツ笑テ柳眼將ニ眠ラントス○  
 百草芽ヲ生ス○草木青ヲ帶ビ黃鶯晴ヲ弄ス○  
 春光艶冶○春將ニ半ナラントス○春風暖ヲ布  
 キ草木榮ニ向フ○麗花目ヲ娛シマシノ鳥聲耳  
 フ怡ハシム○春色畫ガ如シ○百花芳ヲ鬪シ  
 群鳥爭ヒ鳴ク○玄鳥至リテ春色晩ナリ○杏花  
 己ニ發シテ玄鳥翔ス○櫻花爛漫タリ○落花  
 苔ニ點ジテ倉廩將ニ老ントス○綠楊陰暗シテ  
 燕争ヒ飛ブ○春將ニ老ントス○新笋初メテ肥ユ  
 ○春且ニ盡ントシテ時氣熱ニ向フ○春芳已

二

二

ニ去テ夏緑初ノテ齊シ  
 春ガヌギチ夏ノケ  
 シキニナリタ  
 ○樹木陰ヲ交  
 ヘテ子規聲ヲ發ス  
 群鳥和鳴  
 ○薰風南ヨリ来リテ樹  
 諸山緑深シテ  
 木緑滴ラント  
 客情ヲ傷シム  
 以上  
 ○連朝雨霏々タリ  
 梅雨  
 ○露雨絲  
 如ク苔蘚ヲ長ス  
 ○新秧勃然トシテ鬱茂ス  
 榴花碧ヲ燃シ  
 梅子正ニ熟ス  
 ○麥漸々トシテ芒  
 擢ク以上  
 ○毒火燬カ  
 如シ  
 ○炎帝威ヲ逞シフシ  
 草木将ニ枯ントス  
 暑氣ガモドクツテク  
 ○赫々タル炎  
 威統中ニ坐スルガ如シ  
 ○夏熱殊ニ甚ダ

シ○緑樹陰濃ニシテ  
 威頗ル輕シ  
 ○新蟬晚樹  
 ニ噪グ  
 ○赤帝苛ヲ行フ  
 ナツノ日ノ  
 ○熱氣炙ルガ如ク  
 避テ汗ヲ拭フ時ニ清風来ツテ衣ヲ拂ビ少ク涼  
 意ヲ覺ユ  
 タビナドニテ  
 ○流汗背ニ澁シ  
 ○神憤  
 體倦  
 流汗滴ラント  
 欲ス  
 ○風雨驟ニ至ル  
 ○雷鼓空ニ夷キ  
 電光人ヲ射ル  
 ○烈風雨ヲ吹テ雲中火ヲ生シ  
 公聲ヲ發ス  
 ○雷鼓忽チ收リテ涼水ノ如ク  
 秋熱甚ダシ  
 ○殘暑未タ艾キズ  
 ○暑

三

三

威猶未夕減セス上上日日 ○ 律變シテ新新秋秋至至ル ○ 秋秋ニ  
 入入テ涼涼暗暗ニ度度ル ○ 氣氣骨骨ニ入入ル以上 ○ 涼涼風風萬萬里里ニ動動ク ○ 金金風風初初テ動動テ清清  
 佳佳ニシテ尊尊鱸鱸正正ニ美美ナリ ○ 秋秋色色十十分分已已ニ五五分分  
 過過ク ○ 山山ハ秋秋ヲ經經テ轉轉冷冷ク秋秋ハ山山ニ入入テ倍倍  
 々々清清シ ○ 野野菊菊盛盛ニ閑閑ク ○ 鴻鴻雁雁來來ル  
 ○ 沙沙磧磧水水縮縮マリ風風霜霜骨骨ニ砒砒ス ○ 黃黃葉葉風風  
 ナククシ自自ラ舞舞フ ○ 霜霜露露既既ニ降降リテ秋秋山山瘦瘦ス  
 盡盡ク落落テ苔苔蘚蘚枯枯ル ○ 朔朔風風木木葉葉ヲ拂拂ヒ去去リ氣氣節節  
 テ秋秋氣氣凛凛列列トシテ容容衣衣ヲ透透ス ○ 木木葉葉

漸漸ヤク寒寒ニ向向フ ○ 朔朔風風始始テ動動テ橙橙橘橘微微ク黃黃フ  
 帶帶フ ○ 風風悲悲ニ氣氣肅肅ル ○ 霜霜氣氣倍倍々々厲厲シ ○ 寒寒氣氣  
 骨骨ニ徹徹ス ○ 肌肌膚膚粟粟ヲ生生ス ○ 霜霜威威膚膚ヲ襲襲フ ○  
 指指ヲ墮墮シ膚膚ヲ裂裂ク ○ 積積雪雪重重鬱鬱ニ滿滿ツ ○ 大大  
 雪雪連連日日天天地地體體々々タリ ○ 朔朔風風面面ヲ撲撲テ雪雪片片手手ヨ  
 ヨリ大大ナリ ○ 北北風風頗頗ル寒寒  
 道道路路平平坦坦ニシテ左左右右竹竹樹樹葱葱籠籠 ○ 路路甚甚ダ脩脩  
 平平 ○ 還還路路甚甚ダ秋秋隘隘 ○ 右右迴迴左左折折スル ○ 幾幾回回ヲ  
 知知ズ ○ 道道路路平平夷夷老老松松其其左左右右ヲ夾夾サム  
 ナミキナト ○ 阪阪路路泥泥濘濘脛脛ヲ没没ス ○ 泥泥濘濘鞋鞋ヲ没没ス ○

ユル

四

沙路平豁輕塵動ス ○老松千章路ヲ夾サム ○左  
 願スレバ絶壁千仞林木森鬱タリ ○足指皆  
 仰キ漸ヤク行キ漸ヤク高シ ツマサキノホ ○一径綫ノ  
 如ク川ニ随ッテ通ス ○木ヲ積テ棧ト為シ之ヲ  
 踏テ塹々墜ヲ恐ル

東省日録

原漢文節畧 比立ヨリ泊リ迄ノヲ紀ス

安積良齊

雨ヲ冒シテ都ヲ發ス 從者惟一僕是日薄寒衣ヲ  
 透シ泥滓鞋ヲ没ス 本郷ニ憇ヒ酒ヲ命シ數爵ヲ  
 奉グ千里雲山雙不借 數州花月一綵囊ノ句ヲ得  
 タリ板橋ヲ出テ雨始テ霽新緑沐スルガ如ク平

原 迢曠草櫻盛ニ開キ綿繡界ヲ成ス 渡リ有リ戸  
 甲川ト曰フ墨水ノ上流タリ大宮ニ抵ル一宮一祠  
 アリ老杉千章道ヲ夾サム 皆數百年ノ物 晚上尾  
 ニ宿ス

米澤紀行

原漢文節畧 米沢ノ市街ノ事ヲ紀ス

林鶴梁

米府街衢縱横方一里餘列肆繁錯貨物市ニ盈ツ  
 其民耕織ニ勤ム地漆ニ宜ク桑ニ宜ク麻苧ニ宜  
 シ土物充溢ス故ニ四方ノ商賈來タル者甚タ多  
 シ米府鹿子ヲ按ズルニ云フ戸二千八百十六ト隱  
 然タル一都會ナリ風俗皆質實樸茂余偶タマ



其豪商、家一子女ヲ見ル、皆木綿衣ヲ著ス、其家屋府ノ庫、牆壁ノ飾モ亦極テ衰惡、因テ想フ昔時鷹山、疾ノ美、政猶存シ、其後人モ亦能ク其祖法ヲ續ク、

山景○氷景

山号遥ニ某山ヲ見レハ筆格ノ如ク遠翠濛々元

暉ノ畫致ヲ具フ○岩崑翠ヲ疊ス○旭光群峰

相映ス○某ノ山浮嵐暖翠漂渺画カ如シ○某山

數里ノ内ニ在リ翠色流ント欲ス○某ノ諸峰

積雪銀ヲ鎔シ寒光人ヲ射ル○遙ニ某山ヲ見レ

ハ山色鵝突巴ニ下抹ノ遠靄トナル

スデニチカクデミテノナスラリユキテヌミル

層巒翠ヲ聳シテ上重霄ニ出ツ山ノタ

屹然トシテ青空ニ接ス上○天ヲ隱シ日ヲ蔽フ

同○群山回環シテ蹲スルカ如ク伏スルガ如シ

同○層嶂重巖相属シ間闕ナシ山ノワソイ

同○疊屏障ヲ列スルカ如シ上○環合四抱シテ

ノ如シ○遠近ノ諸山烟蕪雲樹ノ表ニ相闕ス○

群山雲上ニ尖出シ○奇峯地ヲ拔テ起ツ山ノタ

數峯地ヲ拔テ筍ノ如シ上○孤劍ノ空ヲ削ルガ

如シ上○一峰尤モ高峻終日雲ヲ吐テ已ス○峻

峰四圍○某山ハ西北ニ盤亘ス○遠山波濤ニ似

タリ ○波濤、起伏スルカ如シ  
 見近ガ若ク遠ガ若シ ○烟霏翠靄ノ間ニ出沒ス  
 ○之ヲ望ム蔚然トシテ深秀 ○波濤海ニ赴クノ  
 状ヲ作ス 山カツミキテナ ○白雲爛然トシテ銀城ノ如  
 ○翠色人ヲ招ク 山ノア ○黛色柳ノ如ク  
 水景 純々石ヲ齧ム 漢ミツナ ○聲ハ琴ノ如ク  
 ○流水其間ヲ過キ奔テ練メリ沍テ輪タリ  
 同上 ○微波鱗々魚鳥游泳ス ○清波鑑ノ如シ  
 眞茫ノ中ニ隱見出沒ス 舟ヲトノ海 ○蠻艦夷舶悉ク  
 社席ノ下ニ在リ 高キ雁コリ海ヲ ○息雁翔集 ○波濤洶

湧 ○来ル奔馬ノ如ク去ル游龍ノ如シ  
 ツ翠壁ノ如ク崩ル雪山ノ如シ  
 帆東ニ向ツテ去ル ○當ニ是數千斛ノ舟ナルベ  
 シ而シテ小ナル蘆葉ノ如シ  
 萬里晴日波ニ映ス ○漁船數百羣ヲ成ス  
 ル者櫓スル者坐レテ釣スル者立テ罾スル者長  
 サ僅ニ一寸餘 濼ヲスル者トホ ○漁船二隻 疊ヲ海中ニ張  
 ル ○罾二網 アア挽ク者三百餘人 ○海灣細  
 沙黒ニシテ光アリ ○某川其間ニ盤廻ス  
 ○一水其間ヲ流ル 同上 ○某川水清シテ底ニ徹ス

○郭北川アリ某ト曰フ源ハ某嶺ニ出テ達一逸ト  
 ○某川繁繞神ヲ拖クガ如シ○驛口丹崖峭峙溪  
 流迅激所謂某川ナリ○一碧萬頃○二川溶々ト  
 石鳴ル○水尤モ清列○水清且ツ深ク魚多シ○  
 溪深シテ魚肥ユ○小魚秧針ノ如キモノ千一  
 為ス○織鱗往來數フベシ○夕日沈ント欲  
 沈鱗競ヒ躍ル○怡然トシテ動カス  
 南遊雜記 原 漢文節畧 海辺ノ山水ヲ紀ス  
 安積良齋

金谷海岸ハ、即チ鋸山ノ起ル所ナリ、怪岩峭壁高  
 ク雲霄ニ入り、磊嵬恣突、詭異萬狀、罷虎ノ相搏ツ  
 カ若ク、烈士ノ怒睨シテ立ツガ若ク、奇鷲九首ノ  
 若ク、糴疏一角ノ若ク、鰲擲鵬軒ノ若シ、日光之ニ  
 映ス、燦々トシテ黄金色ヲ作ス、天雨フラント欲  
 スレハ、則チ雲霧四モニ塞ル、驚波岸ヲ舂ク、行旅  
 通ゼズ、一徑其下ヲ繞ル、仰觀歌側シテ落勢アリ、  
 往來スル者屏息シテ過ク、海濞萬石、嵯峨タリ、大  
 ナル者ハ黒龍角ヲ奮ツチ走ルカ如ク、小ナル者  
 ハ群鼠尾ヲ曳キ竄スルガ若シ、帝鬼工ヲ役シ之  
 群鼠尾ヲ曳キ竄スルガ若シ、帝鬼工ヲ役シ之

ヲ為スカト疑フ、意者此岸風濤ノ衝ニ當リ、日ニ  
判リ月ニ削リ、以テ刺畫ノ妙ヲ極ム、故ニ是ノ如  
シ、鐵鍛セザレバ、鏤邪ヲ成サズ、人困セザレバ、奇  
材ヲ成サズ、物理固ヨリ然リ

亦奇録

原漢文節畧

野村藤陰

申牌興津驛ニ投ズ、大夫先從僕ヲ遣テ、逆旅主人  
ニ命ジ、打魚ヲ戒ム、至レバ則チ漁人蠧集シ、邪許  
ノ声蚊ノ如シ、既ニシテ醫ヲ舉ク、罾尾巨罟アリ  
銀鱗充叔ス、忽マ、子紅鱗ノ深刺タルヲ見ル、即チ  
二尺許ノ棘鬣魚ナリ、大夫大ニ呼デ快ト称ス、便

捕ヘテ水ニ大盤中ニ投ズ、游泳活潑、其他鞋底  
魚一尾、校魚ノ如ハ、則チ以テ斗量スベシ、逆旅ニ  
還リ、後樓ニ登ル、海眺極テ佳ナリ、尋テ又尺許ノ  
紅鬣魚ヲ捕ヘテ来ル、下座喜ブ甚シ、是ニ於テ飲  
ヲ戒ム且ツ割烹シ、一脰ニ斫リ、一羹ニ作ル、新鱗  
口ニ媚ユ、妓ニ名来リテ酒ヲ侑ム、亦旅中ノ一快  
事ナリ、席上即チ棘鬣魚ノ歌ヲ作り、丰人ニ付ス、  
三、更始テ眠ニ就ク、  
温泉

温泉槽ヲ作り之ヲ板屋ノ内ニ貯フ○石ヲ甃シ

テ 八方斛ヲ為ス ○ 槽ノ大サ六尺内外ニ  
 テ 槩ムネ一屋ノ内ニ 幾槽ヲ設ク ○ 竈口ヨリ 墜  
 テ 瀑布トナル ○ 湯烟濛々タリ ○ 下濕ゴトニ 輒  
 ガ 如レ ユノワ ○ 湯源沸然タリ 上 ○ 下濕ゴトニ 輒  
 チ 渾身快適ヲ 覺ユ ○ 之ヲ浴スレハ 輒チ愈ユ ○  
 宿疾稍愈ユ ○ 疥癩ヤク 瘡ニ向フ ○ 跛ヲ起シ 枯  
 肉ス ○ 日ニ槽ニ入ル 一三四次  
 東省日録 原漢文節畧 伊香保温泉ヲ紀ス 安積良齋  
 阪ヲ下リ 橋ヲ度レハ 則チ 伊香保温泉ヲ以テ 著  
 ル 樓屋鱗差 人烟頗フル 稠シ 疾ヲ興シテ 來ル 浴

スル者日ニ千百ヲ以テ 數フ 疾ナキ者ト雖 亦  
 之ニ托シテ 以テ遊ブ 故ニ 山谷間 此喧闐ヲ致ス  
 毎家一槽ヲ置ク 槽ノ四周板ヲ以テ 溫泉篋中ヨ  
 リ 灌輸シ 湯氣和柔 尤トモ 羸弱ナル者ニ 宜シ 予  
 木暮氏ニ 投ス 其妻即チ 塾生桑原カ藏ノ 外姨ナ  
 リ 樓屋頗フル 宏分テ 數十房トナス 浴スル者各  
 ヲ一房ヲ占ム 予試ニ 浴スレバ 肢體融暢 連日  
 道途ノ 踏踏然ク 夜暴風雨

社寺殿甚タ 巨麗 ○ 金碧燦煌 ○ 金碧人ヲ 照ス ○

巴里文苑卷之二

朱欄白壁 ○文捐藻拱頰ハル極テ精麗 ○高カ堯イ巨キ  
 相 ○簷楹翬飛カキ ○左右兩廊ロウ ○修廊迴楹 ○  
 飛簷特起シ其勢翬イキト欲ス ○崇ク數ス尋ジンハカ  
 リ ○廣ク負イン八九十畝 ○橫ヨハ八楹ハチ從ツハ十楹 ○螭レイ甃シウ  
 鱗次リン ○下カ白石シキヲ鋪イテ出入ノ道ミチト為ナス ○  
 石セキ磴クワヲ躡フハ數百級 ○廟宇宏麗 ○樓門華整 ○頗ソコ  
 ブル宏壯 ○堂タウ無閭壯 ○大書ダイシテ云々ト曰フ ○  
 扁ヒョウシテ云々ト曰フ ○山ニ因ヨテ下上臺殿タイヲ築キク  
 ○山勢綿亘浮フ雷ライ其巔ニ冠クス ○塔トウ高カサ百餘  
 丈 ○浮フ圖ト七シ級キツアリ ○峻シユン塔トウ雲ウンヲ貫クス ○塔トウ尖

林表リンニ露ロル ○庭テイ廡ブ下陋 ○庭テイ除ジユ顯ケン敞 ○石シキ砌キ垣ケン  
 石表シキ猶存ユウス ○道傍ダウニ華表カアリ ○廟ベウ後ゴ叢サウ木ボク甚シダ  
 茂マウシ ○門モン内ナイ喬キョウ木ボク離リ立ツス ○殘ザン碑ヒ在アイリ ○斷ダン碣キョク草サウ中  
 ニ仆フクル ○苔タイ蘚セン之ヲ蝕シクシテ讀ムムマカラズ ○碑ヒ長チヤウ  
 ケ 幾イキ尺シキ潤ジュンサ幾イキ尺シキ ○字ジ繞ワウニ半ハン存ソンス ○詞シ記キヲ按アンス  
 ルニ云々 ○香カウ火クワヲ奉ホウスル者シヤ相シヤウ屬リクス ○香カウ火クワ駢ヘン集シツ  
 ○神ジンニ向キヤウヒ禮レイヲ作サクシテ出イツ ○水スイ早サン災サイ癘レイ之ヲ禱イノ  
 レハ輒スツナ應オウズ ○千セン古コニ血ケツ食シヨクス ○民ミン德トクトシテ之  
 ヲ祀マツルル ○義ギ淚レイ胸ムネニ溢アガル ○某コト詞シニ謁エツス ○香カウヲ焚ヒ  
 展セン拜ハイス ○賽サイ祀シ特トクニ盛セイナリ

東省日録

原漢文節畧  
日光山ニ參詣スルヲ紀ス

安積良齋

發起ハカシメ盥沐カンモクシ、闕宮ケツキウヲ拜觀ハイカンス、壯麗サウレイ煥發カンパツ、金碧キンヒツ煌耀クワウヤウ、海  
 内ウチノノ富トクヲ盡ツクシシ、天下テンカノ美ミヲ極ツクム固モトヨリ、贊述サンシュツヲ待マツ  
 不ズ、又マタ贊述サンシュツノ能ノク盡ツクシス所トコロニアラザルナリ、世言セコトニ  
 日光ニツクヒヲ見ミザレバ、傑構ケツコウト言イハフ勿ナレト、信シニ然シリ、顧ミ  
 フニ吾儕ワカライ小人コウジン斗擢トツクヲ衷ツクマズ、一笠イツリツ飄然ヒウゼントシテ、淡タン  
 山千里ノ間ニ逍遙セウヤウシ、到キル慶歸ケイキスルガ如シ、孰タニカ  
 之コトヲシテ然シラシムル、其自ミル所トコロヲ思オモハザルベカ  
 ラザルナリ、拜觀ハイカン畢マタリ、西街セイガイヲ過スキ、山田某ヤマタノナニヲ問トヒ  
 霧降キリフ瀑ハクヲ觀ミト擬シシ、之コトヲ詢ウラフ、性セイ反ハン三十里一日ヲ

逗トウスルニ非ハサレバ、得ウヘカラズ、予望ヨノゾク雲意ウンイ切セツナリ、過  
 スシテ山ヲ下シル、今市イマノチヨリ北キタニ折マテ、絹川キヌガハヲ涉シリ、  
 晚クハカクニ不生シユクニ宿シユクス、

南遊雜記

原漢文節畧  
延生寺ニニキニテ紀ス

安積良齋

小湊海ニ浴ユテ、南行ナンカウスル、二里川ニリガハアリ、揭跣ケツセンシテ  
 過スク、冷ヒヤシカナル、刀戟タウキキヲ踏フムガ如シ、海岸カウアン大石盤陀ダイシキバンダ  
 タリ、午潮ヌチウ怒長ドチウシ、石ニ激ヒキシテ、奔騰ホンテンス、衣袂イベ悉シツク濕シツ  
 フ、西ニ折マレ、山ニ入イル堂ドウナリ、朝日堂チウジツドウト曰イハフ、其扁ヘン  
 十三歳シウサウ篠田氏シノダノウヂノ女メノ書カキスル所トコロナリ、擘窠ヒキカ字ジ甚シバダ  
 壯偉サウキ絶ツクテ、脂粉シホコノ氣キナシ、堂小湊ドウコウト根向ネムカウノ山色サンシキ翠スイ

〆疊カサネ、蔚カク藍レン天テンヲ作ツクテ、其ス麓ソコ粉コ壁キ皚カイ然ゼントシテ白玉  
 樓閣ロウカクノ如ニキ者モノハ誕タマシ生シ寺ジヤナリ、相アヒ與ニ歎トクシテ曰ク  
 釋迦シヤカ歿ボツシテ後ノチ數ス千セン年ネン佛ブツ法ハフ決ケツ裂リツシ、適タシ從ジヨウスル所トコロナ  
 シ、日ニチ蓮レン獨ドクリ法ハフ華ケ經キヤウヲ推シ無ム上ジョウノ法ハフ門モント為ナス大  
 聲シヤウ疾シツ呼コシテ其ノ說セツヲ天テン下カニ倡トナフ、時トキ君キミ震シ怒トクシ、之ノヲ  
 死シニ擣ヲクス者モノ數スビ、而シテ殺キヤ然ゼントシテ屈クセズ竟キヤウニ  
 以テ其ノ志シヨクヲ行コトナヒ今イマニ至キテ法ハフ華ケ塲バウ廟ベウ天テン下カニ遍ヘンシ  
 豈ナラ麓ソコ林リン中チュウノ一イツ豪コウ傑ケツニアラズ

野景

野景ノケイ○村落ソウラク  
 平原ヘイゲン曠クワウ莫マクタリ○野色ノシキハ山サンノ隔カク斷ダンスルナ  
 野景ノケイ○村落ソウラク

シ○梅花メイカ水スイヲ隔ヘキテ幽ユウ香カウヲ送ソウル○梅花メイカ爛ラン熳マンタリ  
 ○新シン柳リウ堤テイヲ拂フフ○柳リウ堤テイ烟エン淡タンシ○柳リウ眉メイ舒シュフ○芳ホウ  
 草ソウ天テンニ連レンル○菜サイ花カ盛セイニ開カイク○粉コン蝶テフ雙サウ々ツツト  
 シテ菜サイ花カ香カウ裏リニ戲キル○草ソウアリテ樹ジュナク四シ顧コ茫マウ  
 タトシテ際サイナシ○烟エン霞カ點テン綴ズイ○地チ絶ダツダ幽ユウ曠クワウナリ  
 ○春シュン雲ウン聚ジュ散サンス○春シュン山サン雲ウンヲ含カンム○春シュン巒ラン淡タン靄アイヲ帶タイ  
 ○或ウチヒハ霽ハレ或ヒハ陰インル○野ノ蕨ケツ漸ジヤウヤク紫シ苞ホウ  
 破ハル○麥バク浪ロウ人ジンヲ撲ウチッ○麥バク香カウ人ジンヲ襲ウチフ麥バク苗ベウ菜サイ  
 花カ黃ワウ綠リョク繡シウ錯サクス○黃ワウ雲ウン野ノニ鋪フシイノネ敷シク○草ソウ木ボク變ヘン  
 表ヒヤウスクサキガシモテ  
 表ヒヤウスイロノカワル



村落茅屋宛兀奇花脩竹コレヲ繞ル○屋ヲ繞テ  
 花木交茂ス○圃中皆桃李梅樹ノ屬ヲ植ユ○邑  
 中纜ニ百餘戸○茅屋叢竹松樹ノ間ニ隱見ス○  
 草舎參差タリ○簇々百餘家○樹竹鬱然トシ人  
 家相望ム○雞聲狗吠ヲ聞ク○檜烟樾嵐紛々ト  
 シテ軒ヲ撲テ飛フ○大木リ家ナカ  
 惟網ヲ晒シ綻裂ヲ補フ○一村皆漁舍ヲノリム漁  
 家櫛比ス○烟樹漁舍其間ニ點綴ス○漁人冒ヲ  
 屋後ニ晒ス○半臂ヲ索ヲ以テ腰ニ束ヌ○  
 ○村屋山ヲ被リ海ヲ帶フ○漁舍相望ム亦短籬

一留ヲ晒ス者アリ

峡中紀行原漢文節畧

荻生徂徠

七日ニ至テ果シテ霽ル昧爽乃チ發ス○轎ニ拾二  
 本藩ノ號帶ヲ繫ク、僱三名僕從廿許輩行列整然  
 頗ル俗吏ノ状態アリ唯轎簾ノ間一柄ノ塵尾風  
 長毛ヲ吹テ麩々然タリ、為ニ本相ヲ露ハス耳都  
 城ノ端門ヲ左ニシ垣堞ニ浴ヒ北郭門ヲ出テ麴  
 坊四谷ヲ經テ、内藤驛ニ至リテ天始メテ明ク親  
 鄰ノ人ヲ差シテ行ヲ送ル者皆還ル、此處侯家ノ  
 莊野多シ曠然己ニ都城中ノ第宅人ヲシテ悶想

生ゼシムルニ勝ヲ覺ム、漸ヤク行クニ茅舎竹  
 漸ヤク佳境ニ入ル、則チ從者ヲシテ先後ニ取  
 意ニ行カシム、轎中ニ在テ身ノ輕キヲ覺ユ十數  
 年来ヲ回思スルニ樊籠中ニ蹋踏シテ、足都城ノ  
 門ヲ出デス、面ヲ仰ガハ貴人ニ非ルナク腰間ノ  
 傲骨日ニ痿軟ニ就ク、祇文人ノ顯職ナク定局ナ  
 ク待ニ間散ヲ以テシ、稍拘束少キヲ以テ自ヲ存  
 スルニ足ル己一旦公事ニ藉テ此ニ來ル口ヲ衝  
 テ快ト称スルノ免レズ、廼チ路傍ノ柴門半掩ヒ、  
 軒睡ノ聲外ニ聞ユ自カラ號帶ノ頭上ニ閃々

ルヲ顧ミルニ、猶爾ク輶車ノ客タリ、惘然トシテ  
 自失セリ、高岡石原、國領等ノ驛ヲ歴ルニ、蕎麥芋  
 葉ハ往々路ニ被レリ、念々益々蕭然タリ、府中ニ  
 至テ、午飯ヲ喫ス  
 遺跡

遺跡

遺跡ニ存ス  
 ○神聖ノ靈蹟 ○遼古ノ遺器 ○太古ノ遺器 ○是  
 其古城趾ナリ ○巨大ノ柱礎 草蕪ノ間ニ横ハル  
 ○古蹟多クハ 蕪蕪ニ属ス ○年代悠久復識ル者  
 ナシ ○史ヲ案スルニ曰ク ○遺蹟荒廢ニ属シ復

知ルベカラス ○水田中一丘アリ土人ニ問フ曰  
 ク其ノ墓ナリト ○田ヲ耕シテ往々折戦遺鏃ヲ  
 得 ○城趾纔ニ藜蕪ノ間ニ存ス ○殘碑夕陽荒草  
 ノ間ニ埋没ス ○棘荆莽然トシテ孤兔ノ窟トナ  
 レ ○浩々乎シテ平沙限リナシ負ニ人ヲ見ズハラ  
 ノホト ○風悲シ日曛ス ○蓬断ハ草枯レ瘰トシテ  
 霜ノ展ノ若シ ○古戰場ノ昔ニ ○往々鬼哭ス天陰レハ則  
 子聞ク合ヒ ○朝霧中時ニ兵士ノ隊ヲ成シテ過ル  
 ヲ見ル ○鳥聲ナクシテ山寂々タリ合ヒ ○夜正ニ  
 長シテ風漸々タリ合ヒ ○魂魄結ンテ天沈々タリ

合上 ○鬼神聚リテ雲幕々タリ合上 ○日光寒シ計ニ  
 樓臺宮閣一時ニ照耀ス今ハ皆化シテ寒烟涼草  
 ト為ル ○オシハカレニ昔シクツバナコナンガアツク西  
 ノ墓タラシ ○貴トナク賤トナク同ク枯骨トナ  
 ル 戰場ニテ討死 ○手足觸膝各々處ヲ異ニス合上 ○古墳  
 荆榛ノ間ニ没シテ千載祀ラズ ○狭世ノ墳塋纔  
 ニ存ス ○帳然トシテ昔人ヲ千歳ニ弔ス  
 峽中紀行 原洪文節書

菽生徂徠

雨ヲ衝テ東行ス、路側ノ葡萄架ハ采摘殆ト盡ク

蕭然トシテ復来路ニ非ルニ似タリ、柏尾山ニ上  
 ルニ、石磴ハ都下ノ愛宕ノ高サノ如シ、寺僧誇リ  
 説ク、福原鐵倉室町世々覇主ノ文卷存セリ、又巨  
 勢金岡ノ畫ケル不動ハ幅ノ廣サ丈二、希代ノ物  
 ナリト、急行ノ為ノ故ニ觀ヲ請ハズ、村口ニ大櫛  
 アリ、横吹川ナリ、陰雨溪流ト勢ヒテ駭ケ、喧然  
 タリ、物候ノ驟ニ殊ナルハ、它道ヲ取テ還ルカト  
 疑フ、鶴頼ニ至レバ、閑吏迎謁ス、店ノ宿スバキモ  
 ノヲ擇ビ、一儻ヲ留メテ、裝ヲ看セシメ、還テ、因テ  
 出テ、橋前ヨリ山ヲ左ニシ、行ク一里許ニシテ

諏訪禰アリ、始メハ則チ都道ト但一川ヲ隔ツル  
 ノミ、行人ノ語、驛豎ノ歌、往々相聞ユ、衣ノ阜白モ  
 尚辨識スバシ、漸ヤク行クニ隔ツ所ノ川又山ヲ  
 隔テ、其水聲モ漸ヤクニ聞エズ、寂寥甚ダシ、土  
 人指語シテ曰ク、後主ノ新府ヲ棄テ東ニ遁ルヤ  
 鶴縣順ニ違フ、乃チ己ヲ得ズ、將ニ天目山ヲ圍ン  
 トス、時ニ猶是ノ路アルナシ、鬚ヲ冒シ、蒼ヲ排シ  
 前山ヨリ以テ進ム、郷豪土兵屢々屯結シテ、逆ヲ  
 助ケ、盜賊不起シ、聲勢相扇ス、將校扈從ノ士モ、日  
 々竈ヲ滅ジ、夫人侍姫ハ荆棘ノ中ニ徒跣シ、路草

モユレガ為ニ色變セリ、父老ノ其事ヲ目撃セシ者言ヲ傳ヘテ今ニ至リ、尚為ニ潜然タリト、予省

吾ト覺エズ歎歎スル之ヲ又フス、

家屋カウキ樓屋ロウウキ頗コバルバ宏コウナリ分ワツテテ数スウ十房ジウホウト為トススヤナ

トイヘン  
ヒロキ  
○巍然ウイゼンタルタル樓閣ロウカク豪華ゴウワ盛麗セイレイニカインアドノツク  
○佳麗カレイ

清潔セイセツキレイナシ  
○一茅樓岸イチマウロウケンニ臨リンンテ歌カツツ川カハヘヘ○危欄キラン

水ニ跨リ飛閣崖ニ懸ルカ合上

酒サウ宴エン携タツフル所ノ巨玉危キョウキョウジンヲ出シ自ラ酌ム三○満マン

引連酌忽ニシテ大醉○酒酣ニシテ興濃ナリ○

獻酬ケンジュウ織オリガ如シ○飲イン皆量ハヤシヲ盡ヌ○歡飲カンイン醉スイヲ盡ツクス

○觴サウヲ飛シテ痛飲ス○余大笑シテ一大白ダイハクヲ浮ウ

ス○列席小飲スル一之ニ久ラス○小飲セウイン數スウ巡メ○

酒數行○爵シヤクヲ洗テ更酌ム○銀燭光ギンジュクカウヲ吐ハクテ金盤キンパン

色シキヲ呈スアカリガカバヤキ○燭光煌トシテ白晝ノ如シ

○酒ヲ命ス薄醕ハク口ニ上ラス○樓上ロウジョウ盛ニ酒肉シウニクヲ

陳ス○妓十餘名粧シヤウヲ疑シテ坐ス○歌舞カクブ狂ノ如

シ○饌セン頗ル豊ナリ○驛妓七八名來リテ酒ヲ侑

ム○新鮮シンセン口ニ媚ユ○酒醇ニシテ肴カウ鮮ナリ○銀ギン

燭星ノ如ク綺筵キデンヲ照ス○羞鮮極シウセンキョクメテ美ナリ酒

ヲ呼ヒ劇飲ス ○ 巨盞ヲ舉ケ自ラ酌ム者三ツ ○  
 ○ 衆モ亦争ツテ飲ム ○ 談笑湧クカ如ク一座春  
 成ス ○ 殺核排列ス ○ 紅燭ヲ燃シ緑酒ヲ酌ム  
 ○ 妓ヲ聘シ飲ヲ侑ム ○ 酒ヲ把リ詩ヲ吟ス ○ 痛  
 飲夜半 到テ罷ム ○ 珍羞具陳ス ○ 繼談飛觴豪  
 興大ニ發ス  
 投宿 晡時某驛ニ投ス ○ 晚某驛ノ送旅ニ投ス ○  
 夕陽某驛ノ送旅ニ達ス ○ 申牌某驛ノ旅亭ニ入  
 ル ○ 薄暮某驛ニ到ル ○ 阪下ハ即チ某々旗亭ニ  
 宿ス 大雨終夜聲アリ ○ 某驛ノ某亭ニ宿ス 海ニ

臨ミ晚酌ス ○ 日既ニ暮ル乃チ宿ス ○ 湯沐ヲ具  
 テ宿ス 亦奇録 原漢文節畧 小原鐵心  
 曉城門ヲ出ツ、澄晴秋ノ如シ、桃壺禪師ト聯歩ス  
 逸思勃發ス、余師ノ肩ヲ打テ曰ク、天地眉間ニ落  
 ツト、師答ヘテ曰ク眼華ナシ、相與ニ大笑ヲ發  
 ス、佐渡ニ抵ル、送ル者陸續追ヒ至ル、余慰勞シテ  
 之ヲ去ル、洲股驛ヲ經テ小越川ニ到ル、蘇峽ノ下  
 流タリ平沙奇白、湛流瑠璃碧ノ如シ、麗景掬スベ  
 シ 近午四谷憩ヒ酒ヲ命シ薄醕口ニ上ラス、盪麵

ヲ食ツテ去ル、琵琶橋ニ上ル忽マチ光彩雲外ニ  
 閃ク者ヲ見ル、云フ所名古屋城ノ金鷄尾ナリ、城  
 下ヲ過キ、鷺津毅堂ヲ訪フ、歡迎シテ置酒ス、平野  
 泥江、森春濤先ツ在リ丹羽内藤岡ノ三士及ミ僧  
 圓桓モ亦繼テ至ル縦談飛觴時ニ泥江豊原生ト  
 謀リ、余タメニ舟ヲ堀川ニ艦ス毅堂ノ曰ク藩禁  
 アリ舟ヲ同フスルヲ得ス君且ツ留マレト、余乃  
 チ携フル所ノ巨玉卮ヲ出シ自カラ酌ム三而シ  
 テ之ヲ属ス即チ辭シ去ント欲ス毅堂モ亦滿引  
 連酌忽ニシテ大ニ醉ヒ興ニ乗シテ同ク門ヲ出

テ、蹠蹠橋ニ到ル、余之ヲ留メテ曰ク止メヨ止メ  
 ヲト、毅堂大聲シテ曰ク、朋友ノ誼重シ瑣々ノ禁  
 何ゾ意トスルニ足ンヤト、春濤等要シテ遂ニ止  
 ム、纜ヲ龍口ニ解ク、内藤岡ノ二士及ビ泥江、春濤  
 圓垣同シク舟ニ入ル、饗具備ル潮方ニ落チ舟行  
 ク、太夕駛シ、橋ヲ過ル七、始メテ市塵ヲ離ル日  
 己ニ暝ス平流空ヲ蘸シ、水林漫際ナシ、左顧スレバ  
 紅燈萬點波上ニ羅列ス是レ宮驛ノ妓樓クリ恍  
 トシテ秦淮吳江ノ想アリ岸ニ達スレバ則チ郷  
 人数名預シノ此ニ来リテ出迎シ、延テ城州樓ニ

上ル樓上盛ニ酒内ヲ陳ジ、妓十餘名粧ヲ凝シテ  
 坐ス、是ノ醜頗ル俗套ニ墜ツ、然レモ旅樂ノ餘狂  
 必ズシモ問ザルナリ、桃壺師モ亦能ク其興ヲ同  
 フス、江崎林、山田ノ三子南洲隣城ノ二僧來見ス  
 連リニ書ヲ乞フ者アリ、紙絹堆ヲ成ス、余醉ニ乘  
 シテ十數幅ヲ揮灑シテ之ヲ藤陰海鷗ニ付ス、二  
 子モ亦數紙ヲ書ス、余既ニ倦ミ、樓ヲ下リテ枕ニ  
 就ク、樓上尚歌舞狂ノ如キ者アリ疑フラクハ竹  
 洲竹堂ノ徒歎

題跋門

畫六法兼備ハル  
 〇描法精妙  
 〇筆ヲ用ユル簡  
 古〇刻意古ヲ摸ス  
 〇烘染宣ヲ得タリ  
 〇設色奇  
 雅〇設色精研  
 〇設色鮮明  
 〇布置清曠  
 〇刻意奇  
 ヲ出ス  
 〇布置宜ヲ得タリ  
 〇筆意群ヲ超ユ  
 〇命  
 意淵微  
 〇凡ハ超ハ聖ニ入ル  
 〇界画神ニ入ル  
 〇  
 妙意外ニアリ  
 〇光華錯落ス  
 〇匠心獨り得  
 〇矩  
 度斤々  
 〇筆力矯健  
 〇變化自在  
 〇用筆自在  
 〇個  
 儻奇偉ノ間法度極メテ森嚴ナリ  
 〇滿紙浮動ス  
 〇顧盼姿ヲ生ズ  
 〇生動常ニ異ナリ  
 〇態ヲ為ス



一ニ非ス ○ 生機躍然タリ ○ 磊落ノ筆ヲ用ユ ○  
 一味工緻妍麗ノミ ○ 胡理疎ニシテ描法密リ  
 ○ 顏毫焦墨 ○ 景物瑰麗 ○ 務メテ真ニ逼ルヲ求ム  
 ○ 景致高遠 ○ 雅致融液 ○ 真機躍然タリ ○ 高雅  
 塵ヲ出ス ○ 雅韻幽間 ○ 平澹清雅 ○ 栖標格筆 ○  
 蒼然タル老筆 ○ 灑落奇偉 ○ 平遠高深 ○ 遠近濃  
 淡 ○ 高低醞釀 ○ 遐迹分明 ○ 幽深雅致兼備サル  
 ナシ ○ 清潤秀致妙ヲ兼ネザルナシ ○ 銷鎔變化  
 端倪スベキナシ ○ 一點一拂神ニ入ラザルハナ  
 シ ○ 金碧設色恠懼目ヲ棄テ ○ 光彩人ノ眉目ヲ

撲ツ ○ 別ニ機軸ヲ出ス ○ 輕毫淺墨ヲ以テ之ヲ  
 出ス ○ 韻度超逸 ○ 風流逸韻 ○ 寫生殊ニ妙ナリ  
 ○ 骨力韻度 ○ 參スルニ變法ヲ以テス ○ 其神韻  
 ヲ并セテ摸取ス ○ 影寫獨り形ノ真ニ通マルノ  
 ミナラズ ○ 数十日ヲ費シエニ摸取ス ○ 筆々必  
 ス慎ム ○ 毫髮モ失フ所ナシ ○ 原本ト辨スベキ  
 者ハ獨リ紙墨ノ新陳ノミ ○ 亦精絶ナリ ○ 實ニ  
 妙跡ナリ ○ 蕭散洒落 ○ 故意怪ヲ作テ以テ人ヲ  
 欺ク ○ 罽中ノ蜂蝶皆生動ヲ欲スルヨ覺ユルナ  
 リ ○ 枯荷折葦ノ下絶墨以テ一蟹ヲ寫ス ○ 務筆

疎花烟枝淡影白玉百顆ハク ○ 清枝蕭疎ハク ○ 疎  
 横斜ハク ○ 玉ハク 刻ハク 氷ハク 層樓複閣周ハク 頂ハク 丹朱ハク 凝ハク  
 翼ハク 氷ハク 雪ハク 載ハク 載ハク 層樓複閣周ハク 頂ハク 丹朱ハク 凝ハク  
 以ハク 人物樹木畧ハク 淡色ハク 設ハク 墨ハク 行ハク 色ハク  
 設ハク 沙鳥翔泳ハク 漁人ハク 曾ハク 挽ハク 屋宇曠虛ハク  
 ○ 華致清雅烟火ノ氣ナシ ○ 寫心ノ妙 ○ 精采溢ハク  
 發ハク ○ 一人胡床ニ坐シテ帽ヲ脱シ方ニ筆ヲ落ス  
 ○ 其一筆ヲ捉リ願ハク 視ハク 訪問スル所アルガ如シ  
 ○ 其一侍者ハク 願ハク 酒ハク 行ハク ○ 其一膝ヲ抱テ酒  
 ○ 其一侍者ハク 願ハク 酒ハク 行ハク ○ 其一膝ヲ抱テ酒  
 旁ハク 坐ハク ○ 行脚ノ僧水ハク 渡ハク ○ 畫人物ヲ以テ

神ハク 白首皓眉ハク 色ハク 媪ハク ニシテ骨ハク 瘦ハク ○ 齡ハク 最ハク モ  
 少ク眉目清秀ハク ○ 祝髮禪衣ハク ○ 體貌肥大ハク ○ 眉目生ハク  
 ケルカ如シ ○ 盤ハク 肩ハク ニシテ竿ハク 手ハク ニス ○ 左手ハク 籠ハク  
 執ハク 右手ハク 探ハク ○ 風貌秀偉ハク ○ 漁翁魚ハク 提ハク  
 ○ 樵夫ハク 負ハク ○ 昂然ハク トレチ梅ハク ニ倚ハク テ立ハク ヅ  
 ○ 紙筆ヲ手ニシテ顧ハク ミ詩句ヲ拈ハク 敲ハク スルハク 如ハク キ  
 ○ 外套ハク 脱ハク シ大鳥ハク 拳ハク ○ 右坐ハク 左跪ハク シ醉ハク  
 フテ顛ハク ズルガ若ハク キ者ハク ○ 刀ハク 腰ハク ニシテ手ハク 箆ハク ニス  
 ○ 剃ハク 鬚ハク ニシテ鬢ハク 髮ハク 髻ハク ○ 躬倚ハク シテ面ハク 仰ハク キ ○ 卓ハク 下ハク 隔ハク  
 テ語ハク ○ 胡人鞍馬射獵ハク ス ○ 青綠ハク 楮ハク 雜ハク 一ハク 被ハク 擦ハク

隠現ス ○ 山巒重複シ 港汊貫穿ヲナス ○ 桃林水  
 ヲ帶ビ之ヲ 眺スレハ 窮リテキガ如シ ○ 樹石濃  
 澗 ○ 樹石妙ニ入ル ○ 山勢迤邐タリ ○ 石芒峭立  
 ス ○ 壁面石アリ 突出ス ○ 深林ノ中 樵徑劣ニ緩  
 ノ 若シ ○ 山林ノ 幽邃水石ノ 峭厲 ○ 山水繁廻ス  
 ○ 真ニ天造地設 ○ 參差邐續 ○ 遠岫烟ヲ横フ ○  
 雲杳煙渺 ○ 豁然トシテ 叢ニ抛カツ ○ 樹搖キ草  
 摩ク ○ 紅鷺キ 緑翻ル ○ 衝激震撼シ 四壁ヲ 鳴動  
 スルヲ 覺ユ ナドノエ ○ 珠ヲ 濺キ 玉ヲ 噴ク ○ 珠ヲ 駭  
 シ 玉ヲ 驚ク ○ 珠跳リ 玉迸シル ○ 清風 四モニ生

スルヲ 覺ユ ○ 九天ノ 銀河ヲ 取テ 几席ノ 間ニ 置  
 テ 玳ト 作ス ヲノオ ○ 帆腹飽滿シ 一瞬千里ノ 勢ア  
 リ フネノハヤク ○ 懸崖峭壁 流泉ヲ 飛出ス ○ 江天万里  
 尺瀛ニ 萃ル ○ 身ヲ 十洲三島ノ 間ニ 置クガ 若シ  
 ○ 遠近映帶ス ○ 廻飈帆腹ニ 入り 輾チ 飛ビ 去ン  
 ト 欲ス ○ 隱ハトシテ 烟霧ノ 間ニ 列ル 遠山ヲト  
 木蕭疎 ○ 村落映帶ス ○ 一木一石 皆精工秀美ヲ  
 極ム ○ 深ク 山林葱蒨 沈瀉ノ 妙ヲ 得タリ ○ 一邱  
 一壑ノ 間自カラ 遠思アリ ○ 此ヲ 覽ル者 當ニ 烟  
 雲眼ヲ 過ルノ 觀ヲ 作スマシ ○ 堂舍 橋門ノ 崇卑

潤狹 ○ 澗溪 躬身、背向源委 ○ 林松速眠 ○ 人物  
 樹石筆々新意 ○ 一樹一石移易スヤカラカ ○ 峯  
 巒宛轉トシテ竹木蕭疎 ○ 樹石嶮ヨリ横縱生ス  
 ○ 龍起リ蛟蟠ル ○ 枝皆倒シニ懸リ潭ニ  
 臨ム ○ 勃鳥トシテ烟ノ如シ ○ 樽鳥トシテ盤旋  
 ス全エ ○ 嵐烟ヲ照染シテ恍トシテ雨ヲラント欲  
 スルカ若シ ○ 一脉山水曲ゴトニ趣ヲ殊ニス ○  
 山ニ深淺アリ ○ 水ニ源委アリ ○ 已ニ成リテ休  
 ス ○ 未ダ濟ニ及バザル者 ○ 少者扶持シ幾ト濱  
 ヲ欲セザル者 ○ 流ニ臨ンテ未ダ涉ラザル者 ○

險前ニ在ルヲ見テ石ニ依テ坐卧スル者 ○ 頗ル  
 其情状ヲ極ム ○ 人物皆妙絶 ○ 佛像ヲ模寫スル  
 漸ヤク密ナリ ○ 一邱一壑自カラ其ノ胸次之  
 アルヤシ ○ 寫ス所ノ形質ヲ觀ルニ未タ至ラサ  
 ルニ似タリ ○ 此亦丹青ノ妙ナリ ○ 誠ニ筆ニ妙  
 ナリ俗工ノ能ク辨スル所ニ非ルナリ ○ 其巧拙  
 工俗ヲ知ル ○ 造微妙入ル ○ 舊画ノ人物ヲ摹取  
 ス ○ 人物佳處アリト雖正行布韻ナシ ○ 之ヲ開  
 ケハ廓然トシテ漁父ノ家風ヲ見ル ○ 一邱一壑  
 古人ニ減セズ ○ 筆墨幾ト古人ノ心ヲ用ヒザル

處ニ到ル ○江山寥落居然トシテ萬里ノ勢ヒア  
 リ ○木石瘦硬烟雲遠近一色ヲ以テ之ヲ取ル ○  
 水意遠ラント欲ス ○鳧鴨蘆葦風霜ノ中ニ閑暇  
 ナリ ○殊ニ思致アリ ○但筆意柔嫩ヲ覺ユ ○意  
 態甚タ逼レリ ○水活キ石潤ク ○石潤キ竹勁シ  
 佳筆ナリ ○山重リ水復リ雲物ヲ以テ映帶セズ  
 ○筆意乏カラズ ○長林巨石風飄ハリ水激ス ○  
 之ヲ墻壁ニ張バ我カ岑寂ヲ助ク ○蕙ノ九  
 考蘭ノ一花ニ如ズ ○竹上ノ鸚鵡曲折思アリ ○  
 生動物ノ情態ニ妙ナリ ○殘灯耿狀タリ畫僧踞々

トシテ動ント欲ス ○花竹禽魚ヲ妙トス ○宮室  
 器用ヲ巧トス ○山水ヲ勝トス ○山水清雄奇富  
 變態窮リナキヲ以テ難トナス ○渾然トシテ天  
 成 ○粲然トシテ日新 ○一揮シテ成ル ○群鶴聳  
 翅シ飛ノト欲シテ未ダ起ガルガ如キナリ ○飛  
 鳥頸ヲ縮レハ則チ足ヲ展ス ○足ヲ縮メハ則チ  
 頸ヲ展フ ○人物禽魚ノ變態 ○山川草木ノ奇姿  
 ○林木皆晦靄 ○平遠細皴 ○奔湍巨浪山石ト  
 曲折ス 全上 ○輪瀉跳蹙ノ狀ヲ作シ沟々トシテ屋  
 ヲ崩サント欲ス 全上 ○夏日コトニ之ヲ高堂素壁

挂レハ即チ雅風人ヲ襲ヒ毛髮為ニ立タキナド○  
 以テ影ヲ取ルガ如シ人物ナドニ用ユ○旁見カウケン側出ソクシツ横斜ヨウセキ平直ヘイジツ  
 ○新意ヲ法度ノ中ニ出シ○妙理ヲ豪放ノ外  
 ニ寄ス○皴染潤澤一筆ノ苟モ作ルナシ○千奇  
 万變時ニ指腕ノ間ニ露ル○新奇チウキ疊出ソウシュツ○變幻  
 横出ス○筆ヲ揮ヘハ則チ變態百出ス○隨意ニ  
 設施ス○布置經營○布置深遠○筆ヲ用ル牛毛  
 繭絲ノ如シ○筆法春蠶ノ絲ヲ吐ガ如シ○腕ヲ  
 舉レバ風ヲ生ス○筆ヲ下セハ自カラ能人ニ過  
 タリ○丹青ニ於テ獨リ妙ナリ○自カラ妙境ニ

臻ル○妙絶ナラサルナシ○墨ヲ點ズレバ片紙  
 佳境ト成ル○全ク焦墨ヲ用ユ○此圖魚墨ヲ以  
 テ作ル○此卷ヲ展閱シテ覺ヘズ蕭然トシテ意  
 遠シ○偶々此圖ヲ閱スレバ覺ヘズ清風習々ト  
 シテ兩腋ニ生ス○隆暑之ヲ張バ凛然トシテ寒  
 意アリタキ山水ヲドニ用ユ○謾ニ點漆ヲナシテ長者ノ命ヲ塞  
 グ○遂ニ手ニ信シテ此ヲ寫シテ白ヲ塞ク○之  
 ヲ画イテ以テ吾ガ意ヲ寄ス○聊カ以テ吾ガ胸  
 中ノ逸氣ヲ寫ス○景ニ對シテ圖ヲ寫ス○放筆  
 大快并セテ題シテ某公ノ一笑ニ似ズ○聊カ以

テ知者ノ一笑ニ供スル取○人言フ畫竹書法ニ  
 通ズト○人謂フ出藍ノ美アリト詎ソ信ナラザ  
 ラシ○畫中ニ詩アリト良ニ誣ザルナリ○孰  
 繪画小道ナリト謂ンヤ○究竟誰カ卓白ラ介夕  
 シ○為ニ其大概ヲ書シ并セテ之ヲ藏セシム○  
 此詎ゾ卑見寡聞者ノ為ニ道ベケンヤ○然レ氏  
 畫筆モ亦能品ニ入ル得ヤスカラザルナリ○此  
 画ノ沈痾ナリ○意ヲ林泉ニ得ルノ髮鬚タルヲ  
 見ルベシ○告ルニ此意ヲ以テス○因テ書ンテ  
 以テ之ヲ遣ル○落筆高妙名虚シク得ザルトリ

○乃チ是老年作ル所貴フベキナリ○亦翰墨ノ  
 秀ナリ○亦好事者ノ一適ナリ○居士豈特ニ老  
 画師ヲ以テ之ヲ目スベケンヤ○予モ又為ニ其  
 尾ニ跋ス○此本乃チ入品ノ妙蹟ナリ○画史ノ  
 實録ト謂フベキ者耶非耶○借觀旬日一言ヲ引  
 テ之ヲ還ス○尤物化去シ易シ宜シク其藏ヲ固  
 フスベシ○恍然クル之ヲ久ス○之ヲ他手ニ視  
 レハ靈蠢殊ニ別ル○題シテ之ヲ返ス○借觀彌  
 月此ヲ題シテ之ヲ還ス○試ニ此ヲ以テ其ニ示  
 ス○因テ為メニ教語ヲ跋ス

題護園讌集圖 原漢文

佐藤一齋

護園讌集ノ圖卓ヲ環リテ坐スル者凡ソ八人其  
 白首皓眉色煥ニシテ骨癯謹然トシテ容ル所ア  
 ルガ若キ者ハ物茂卿タリ即チ護園主人ナリ右  
 側紙筆ヲ手ニシテ顔ニ詩句ヲ推敲スルカ若キ  
 者ハ縣孝孺次公左側齡最モ少ク眉目清秀丰采  
 瀟洒ナル者ハ滕煥圖東壁祝髮禪衣體貌肥大十  
 ル者ハ釋原資萬庵外套ヲ脱シ大爵ヲ舉ル右坐  
 左跪シ醉ノテ顛スルガ若キ者ハ平玄中子和子  
 和ト竝ビ坐シ從容醞藉相獻酬スルガ若キ者ハ

服元喬子遷次公ノ側ニアリ疑然トシテ端坐シ  
 刀ヲ腰ニシ箆ヲ手ニシ子和ヲ熟視シテ揮感ス  
 ル者ハ太宰純徳夫子遷ノ後ニ在リ剃鬚シテ鬢  
 綫躬俯シテ面仰キ萬庵ト卓ヲ隔テ語ルガ若キ  
 者ハ宇惠子迪ナリ次公ヨリ而下七人皆詞藝ヲ  
 以テ一時ニ名アリ蓋シ後輩ノ門ニ於テ翹々タ  
 ル者此畧誰ガ作ル所ナルヲ知ラズ必ス其徒當  
 時ニ在リ親シク之ヲ睹ル者ニ出ツ然ラズンバ  
 恐ラクハ其真ヲ肖セ其態ヲ寫シ其風流文雅ノ  
 概ヲ殫シ此ノ如キノ評ナル能ハサルナリ在昔



宗ノ熙寧中王晉卿一時ノ名流ヲ西園ニ會シ東  
 坡ヨリ而下十六人李伯時圖シテ米元章之ヲ叙  
 ス、藝苑傳ヘテ以テ佳話ト為ス、我が享保中ノ如  
 キモ、亦才子輩出ス護園ヲ以テ最モ盛ナリトス  
 而シテ此集適々西園ト相彷彿タリ、則チ圖シテ  
 之ヲ傳フ、固ヨリ其レ宜ナリ、且ツ今此番ニ對シ  
 當時ヲ想像ス、吾ヲシテ如シ身其堂ニ躋リ文酒  
 ノ間ニ相周旋セシメバ、亦一快事ナリ、乃チ重テ  
 之ヲ撫シ、各人ノ姓氏ヲ顛ニ録シ後ノ攬ル者ヲ  
 シテ考ル所アラシム

題蘭相如秦壁圖

原漢文節畧

安井息軒

眇然タル小丈夫ノミ、カ以テ難ヲ維クニ足ズ、  
 以テ人ニ加フルニ足ラス、而シテ英氣一タビ發  
 シ、滿堂摺伏シ、秦政ノ暴ヲ以テ、少クモ其節ヲ折  
 ラ得ズ、終ニ壁ヲ完シテ以テ還ル、甚ダシ氣ノ能  
 ク萬物ノ上ニ伸スルナリ、然レモ氣志ニ生シ志  
 義ニ奮フ、義苟モ失ス、匹夫猶且ツ之ヲ悔ン安ソ  
 ズ、能ク虎狼ノ秦ニ逞セシヤ、相如唯此義ヲ知ル  
 ナリ、故ニ他日廉頗ニ屈シ、四體骨ナキガ如シ亦  
 能ク頗ヲシテ内祖罪ヲ謝シテ、趙國頼テ以テ安

カラシム世ノ<sup>ハナ</sup>者獨リ其泰ヲ折ヲ知テ  
其能ク之ヲ折ク<sup>ハ</sup>以ハ則チ別ニ在アルヲ知ラ  
ズ、抑々末ナリ、

紀春琴横卷山水跋 原漢文 篠寺小竹

横卷山水ハ其猶歌行長篇ノゴトキカ、<sup>道</sup>ヨリ尾  
ニ至テ氣脉貫カザルヤカラザルナリ、然レモ一  
緊平遠ノレハ則チ冗長嚼蠟人觀ヲ樂マズ刻意  
奇ヲ出セハ、則チ布置宜ヲ失フ、詩ノ章法ナキガ  
如シ、人ヲシテ徒ニ驚異セシムル耳武夷九曲文  
公掉歌ヲ作ル、一脉ノ山水曲ゴトニ趣ヲ殊ニス

固ヨリ愛スベキナリ、然レモ絶句ノ詩ハ猶尺寸  
畫帖ノゴトシ、幅ヲ分チ圖ヲ製スルハ是難ラガ  
ルナリ、善ク長卷ヲ作ル者ハ山ニ淺深アリ、水ニ  
源委アリ、照應ヲ前後ニ寓シテ勝景ヲ自然ニ轉  
ズ、起伏頓坐應接暇アラズ必ズヤ老杜新画山水  
障ノ歌大蘇烟江疊嶂ノ咏ノ如ク、而後之ヲ得タ  
リト為スナリ、此卷ハ春琴居士十年前画ク所余  
説ト黙契スル者アリ、展玩ノ間、亦歌行ヲ作ルノ  
法ヲ知ルマシ、獨リ能ク黄太癡ノ筆意ヲ用ルノ  
ミナラザルナリ、居士豈特ニ老画師ヲ以テ之ヲ

目スバケンヤ

書

書

龍蟻蟄起盤屈騰踔篆隸ノ ○書法銘厲奇崛多全上

○古勁沈痛隸書ノ ○方勁古拙針ヲ斬リ鐵ヲ截ル全上

○筆法端謹楷書ヲ ○行々春刻ヲ紆スルガ如シ ○

字以秋蛇ヲ縮スルガ如シ ○筆勢奕々 ○筆勢殊

ニ妙ナリ ○草書必醉ヲ俟ツ ○醒レハ即チ天真

全カラズ ○落筆風ノ如シ ○書初ノ佳ニ意ナク

シテ乃チ佳ナルノミ ○清閑妙麗 ○相去ル未ク

久シカラズ ○相去ル遠一甚シ ○獨其能ヲ擅ニ

ス ○獨り體ヲ得タリト為ス ○神采秀發膏潤窮

リナシ ○峭峙回ラザルノ勢アリ ○楷法尤妙ナ

リ ○筆勢險勁 ○字體新麗 ○其文采字畫皆自然

人ニ絶ルノ姿アリ ○飄々トシテ凌雲ノ致アリ

○落筆雲龍ノ飛動スルガ如シ ○心ニ得テ手ニ

應シ未ダ此ノ如ク妙ナル者アラズ ○大小行楷

各々其妙ヲ極ム ○鈎指回腕必其規模ヲ踐ム ○

變化ヲ流峙ニ參ス ○筆力遒勁 ○筆刀雄偉 ○筆

力精起 ○風骨遒勁 ○字體更一起妙ヲ覺ユ ○起

妙神ニ入レ ○書尤モ豪壯 ○神氣清秀 ○古人ノ

法度ヲ富有ス ○清瘦ニシテ弱ナラス ○氣質高  
 古 ○筆法圓勁 ○書法遒勁 ○筆法蒼古 ○書法超  
 邁 ○秀麗愛スバシ ○筆勁ニシテ秀潤 ○筆力豪  
 壯 ○快劍陳ヲ斫リ強弩千里ヲ射テ當ル牙穿徹  
 スルガ如シ ○筆力ノツヨキヲ ○極メテ前人ノ筆意ヲ得  
 タリ ○小楷清勁精神アリ難シ ○雅麗精絶流俗  
 ナ脱去ス ○真ニ晋唐ノ法書ニ逼ル ○當ニ之ヲ  
 晋唐ノ間ニ求ムベシ ○其書法逸トシテ晋唐ヲ  
 窺フヲ能ハス ○頗ル蘇米ノ手致ヲ得タリ ○駿  
 々然トシテ晋人ノ法度多シ ○痛快沈著極ノテ

晋人ニ近シ ○故ニ奇麗ヲ作シテ以テ俗眼ヲ驚  
 ス ○筆痕墨跡化セガル所ナシ ○墨妙筆精賛ス  
 ルヲ待ガルアリ ○書字綿弱 ○筆ヲ用ル起倒ニ  
 妙ナリ ○温良ノ氣人ヲ襲フ ○章草法甚タ妙 ○  
 要スルニ皆妙墨タリ ○骨肉豐殺略々相宜キノ  
 ○筆法清勁 ○頗ル草法ヲ得タリ ○筆墨清勁  
 ○真行皆妙 ○絶品ニ入ル ○神品ニ入ル ○秀逸  
 中饒ニ雄勁ヲ以テ勝ル ○縱逸中ニ肅括ノ意ア  
 リ ○奔放ノ中藏蓄ノ風アリ ○烟雲飛動ノ勢ヒ  
 アリ ○往々意ヲ經ガル処ニ於テ反テ天真ヲ見

ル ○ 咫尺ノ間千里ノ勢アリ ○ 横逸ニシテ空ヲ  
 行塵ヲ絶ツノ勢アリ ○ 一點ノ俗塵ノ氣ナシ ○  
 世塵一毫モ之ニ嬰ル能ハス ○ 毫髮モ姿媚ノ意  
 態ナシ ○ 縦横放逸 ○ 縦横排宕 ○ 跌宕縦横 ○ 蟠  
 結莊重 ○ 清潤塵ヲ出ス ○ 結構精雅 ○ 字画閑雅  
 ○ 墨氣明潤 ○ 墨彩豔發 ○ 古人ノ書ニエナル他  
 異ナシ但能ク筆ヲ用ルノミ ○ 當代ノ入神品ト  
 稱ス ○ 古今ニ妙絶ナリ ○ 精神人ヲ照ラス ○ 清  
 勁方重 ○ 瘦健清技 ○ 殊ニ筆ノ妙ヲ見ル ○ 古香  
 紙ニ満 ○ 幽光油然タリ ○ 潤ニシテ古色アリ ○

華化ハ小技豈心ヲ經ル者ナラシヤ ○ 勁迅飛動  
 ○ 華致墨韻 ○ 流麗閑都衆法悉々具ル ○ 酷々  
 唐人ノ二王ヲ學ブ者ニ似タリ ○ 紀律極メテ正  
 シ ○ 草聖尤モ妙ナリ ○ 飄逸縦横毫規矩ヲ失  
 ハズ ○ 華札飄逸 ○ 蒼勁沈著 ○ 天骨神運 ○ 運腕  
 老練 ○ 道勁變化骨力アリ ○ 未ダ此ノ如ク妙ナ  
 ル者アラス ○ 此ノ如キ者絶ガ少シ ○ 其老筆々  
 ル疑ヒナシ ○ 盛年得意ノ書ナリ ○ 真ニ書家ノ  
 聖ナリ ○ 瘦勁喜フベシ ○ 優勁流動復後世書ヲ  
 成ス者ノ能ク及ブ所ニアラス ○ 瘦硬ハ作シ易

シ肥効ハ得難シ○超軼塵ヲ絶ツノ處アリ○奇  
 偉秀技○風流氣骨○蕭然トシテ繩墨ノ外ニ出  
 ツ○超越塵ヲ絶ツ○瘦勁俗氣ナシ○筆圓淨ニ  
 シテ勁○肥瘦中ヲ得テリ○筆勢往來鐵線ヲ用テ  
 糾纏スルガ如シ○字勢豪逸○工巧太夕深シ○  
 此書圓勁成就○筆法超逸絶塵○圓勁ニシテ韻  
 ノリ○疎々密々意ニ随テ緩急○神ニ通シ妙ニ  
 入ル○筆法亦極メテ清勁○秋毫モ俗ニ流ルナ  
 シ○時ニ筆ヲ遣ルエナラザル處アリ○清氣人  
 ヲ照ス○和ニシテ勁晋宋人間ノ書ニ似タリ○

筆ヲ下ス沉著○筆意姿媚○肥肉ヲ剩セズ○瘦  
 骨ヲ露サズ○蹄シテ取モ意ヲ得ルノ書トナス  
 ○豈大盜兵火ノ時ヲ経ザフンヤ○千一ヲ存セ  
 ス○最モ是古人ノ妙處○但骨氣勁ニシテ肉少  
 キノミ○断ニア真蹟タル疑ナシ○當ニ是真蹟  
 疑ヒナカルハシ○其書タル議スベカラザルナ  
 リ○其其手ニ成ル疑フベカラズ○何ノ幸カ今  
 日復此真蹟ヲ見ヲ得タリ○但真蹟ノ得ベカラ  
 ザルヲ恨ムノミ○予書ヲ善クセス、好テ書ヲ論  
 ス○是書獨り水火瓦礫ノ餘ニ完シ○此ヲ殊煤

ノ餘ニ得タリ ○覽者細辨スベシ ○此書一卷  
 モ愛スベシ ○自カラ新意ヲ出シ古人ヲ踐マ  
 是快ナリ ○嗟嘆ノ餘即チ其末ニ題ス ○公ノ  
 墨迹自カラ當ニ世ノ寶トスル所ナルヘシ特  
 華画ノ工ノミナラザルナリ ○信ニ天下ノ奇  
 跡ナリ ○妄意之ヲ評スル此ヲ如シ ○王氏父子  
 ニ減ゼス ○一代草書ノ冠ナリ ○自カラ天下後  
 世ニ冠絶タリ ○某ニ減セズ乏キ所ノ者ハ韻ノ  
 ○寶藏スベキ也 ○真ニ古人ニ愧ヂス ○何ソ  
 止獨リ今代ニ行ルノミナラシヤ ○輒チ其後ニ

題ス ○予之ヲ愛ス因テ書ス ○故ニ并セテ之ヲ  
 書ス ○予ニ屬シテ重テ書セシム ○余ニ跋セシ  
 一ヲ請フ ○玉書タル萬一モ疑ヒナシ ○謹ンテ  
 其來由ヲ記スル此ノ如シ ○公觀テ之ヲ愛シ更  
 ニ京工ニ命シテ改装ス 粲然タル美觀亦此ノ帖  
 ノ奇偶也 ○翁ノ孫子ヲシテ累世保藏シ敢テ忽  
 ニセザラシムト云 ○披翫宿ヲ經謹ンテ原教ヲ  
 照シテ奉還ス ○書見ニ裁シテ其家ニ在リ ○因  
 テ其末ニ書ス ○燈下更ニ數筆ヲ添フ ○既ニ識  
 シテ復短篇ヲ以テ左方ニ系ク

跋白川源侯書原漢文

柴栗山

白川侯源公謂邦彦筆札ヲ愛スト、其親作ノ行  
 草及ビ大字ノ扁額數種ヲ俯示セラル、蒼勁沈著  
 嶽立海澗粗軟媚纖巧ノ態ナシ、大ニ弘仁天長以  
 上ノ書ニ類ス、而シテ其天骨神運隱然トシテ南  
 面有土ノ氣アリ人ヲシテ悚然トシテ容ヲ改メ  
 シム、是尋常書學家ノ巧ヲ波磔ニ争フ者ノ萬一  
 ヲ庶幾スベキニアラザルナリ、是敢テ諛ヲ厭ズ  
 ルニアラザルナリ、賞鑑家ノ公同定論ナリ披讀  
 宿ヲ經謹々テ原數ヲ照シテ奉還ス

書蕃山遺墨後原漢文

藤田東湖

蕃山熊澤子ノ遺墨一通我ガ水蕃鵜飼胎翁ノ藏  
 スル所ナリ、胎翁實ニ諸ヲ京師、其家ニ蕪タリト  
 云フ、按スルニ蕃山年五十餘、播磨ニ客居シ始メ  
 テ息游軒ト稱ス、其後數年播磨ヨリ大和ニ徙ル、  
 斯書署シテ息游軒ト曰ヒ、又旅行京ヲ過クルノ  
 事ヲ言ハハ、則チ疑ラクハ其發軔前ノ裁スル所  
 ニ係ラ、之ヲ要スルニ倉卒應酬ノ文字、而シテ  
 筆意高古氣韻流動ス、亦以テ其風采ヲ想見スベ  
 シ抑々蕃山器識宏遠君ヲ愛シ國ヲ憂ハ身當時



ニ蹟キ言後世ニ立ツ、好古ノ士、其人ヲ歛シ其世  
 ヲ論シ、以テ其遺墨ニ及ブハ則チ可ナリ、若シ或  
 ハ筆翰ノ未技ヲ以テ、輒チ其人ヲ輕重スルハ、則  
 チ之ヲ失スル速シ

牧大信歸去來帖跋 原漢文 芳野金陵

牧大信書訣ヲ卷菱湖ニ受ケ、鉤指回腕必不其規  
 模ヲ踐ム、既ニシテ江山ニ放浪スル一數年、變化  
 ヲ流峙ニ參シ、真理ヲ風雲ニ會ス、色相化シテ天  
 機張ル、此帖筆力適勁字々化境ニ入ル洵ニ嘉尚  
 スバキナリ、於戲、生年壯ニ氣銳ナリ、烟霞ノ情未

夕回スバカラサレバ、則チ其化豈特ニ斯ニ止  
 之ヲ化シ又之ヲ化シ、以テ神ニ入ルヤシ、

墨帖

墨帖 墨本精妙 ○搨法彫法打法皆自得ノ秘アリ

○姿態悦ブベキガ如シト雖ニ而シテ頗ル軟靡

骨力ニ乏シ恐クハ明人ノ臨本ナラン ○點画間

遊絲牽聯極ノテ纖細石本ニ似不蓋シ木刻ナリ

○傳刻日ニ廣ンテ麤惡相踵ク ○此本殊ニ精妙

○千臨百摹轉夕相傳刻ス ○精心摹勒合シテ一

卷ト為ス ○傳摸真ヲ失フ ○石工真ヲ失フ ○臨

摹一過 ○ 鈎臨最モ精シ ○ 手自カラ鈎摹シテ石  
 = 刻ス ○ 摹勒シテ石ニ上ス ○ 挑拂渴泐ノ處毫  
 釐ヲモ失ハス ○ 油箋ヲ以テ摹シテ一紙ヲ得  
 タリ ○ 追テ一本ヲ模シテ亦畧其意ヲ得タリト  
 其後人ノ覆刻タル疑ヒナシ ○ 某ノ描寫ニ於ル  
 絶世ノ技ト称スベシ ○ 舊本ニ拠リ之ヲ補完ス  
 ○ 心ヲ悉シテ臨寫シ以テ後昆ニ示ス ○ 臨本頗  
 ル多シ ○ 廓填精妙絶々一筆ノ書ニ似タリ  
 ○ 鈎填用墨巧妙 ○ 日月愈々遠ク此本當ニ  
 復缺壞スバシ ○ 石ニ摹刻ス ○ 名手ヲ倩テ諸ヲ

石ニ勒マ ○ 況ンテ數百年ノ後傳刻ノ餘其真偽  
 ヲ必セント欲スルハ難シ ○ 摹寫屢々傳フト雖  
 氏猶昔人筆ヲ用ユルノ意思アリ ○ 某ノ摹スル  
 所ニ比スレハ勝リト ○ 毫髮モ爽ハズ ○ 墨光鑑  
 ノ如シ ○ 墨色漆ノ如シ ○ 完好闕ルナシ ○ 舊碑  
 湮滅ス ○ 歳久シテ刻弊ス ○ 石泐シ字漫ス ○ 筆  
 画靜穩自カラ師法ト為スバシ ○ 腐本濕鼓了ニ  
 高韻ニ乏シ ○ 其書スル所刻石ヲ觀ルヲ得タリ  
 ○ 爰ニ貞珉ヲ鑄テ以テ同好ニ公ニス ○ 好手ヲ  
 倩テ石ニ勒シテ以テ先人ノ志ヲ遂ント欲ス ○

已事文卷之三

字十ニ二三ヲ存ス ○断裂シテ讀ムバカラズ  
 ○断闕剥蝕字ノ尋ヌバキナキ一幾シ ○剥蝕、  
 餘風骨未タ減ゼス ○字微シク剥損アリ  
 跋文維則大智禪師碑帖 原漢文 紫 栗山  
 我カ友韓大年天壽書画ニ耽溺シ、頗アル 米穉ア  
 リ、一日其狎客隸古雙鈎一本ヲ持シ之ヲ示ス者  
 アリ、韓疑視燈然タリ、頃之シテ巾箱中ノ小判金  
 數餅ヲ顧ミ取リテ以テ之ヲ賞ス、其人遂巡敢テ  
 當ラズ、韓微咲シテ曰ク、且ツ收メ去レ、此本麤惡  
 固ヨリ一錢ニ直ラズ、獨リ奈ンヒズ、其史維則

大智禪師ノ碑タリ余此碑ヲ戀想スル一久シ、未  
 傳テ此間ニ在ルヤ否ヲ審ニセズ、今此本ニ因  
 テ其來テ既ニ此間ニ在ルヲ知ルナリ、既ニ來テ  
 此ニアリ、未タ的ニ誰カ手ニ在ルヲ知ラズト雖  
 此會々應ニ觀ル一ヲ得ハシ、是余カ喜ビ禁ハザ  
 ル所以ノミト、當時交遊中傳咲シテ以テ佳話ト  
 ナス、亦相與ニ意ヲ著シテ、搜訪ス未タ獲ル能ハ  
 ズト云フ乙卯ノ冬彦藤張羽ト相識ル、張羽ハ廣  
 澤翁公謹ノ孫ナリ、始ノテ此碑ノ翁ガ舊藏ナル  
 マ知ルナリ、張羽因テ新鑄模本ヲ并テ出シ示ス

余驚喜急ニ書ヲ作テ韓ニ報ゼント欲ス其赴適  
 ヲ至ル之ガ為ニ悵然トシテ作惡數日大年平生  
 一々ビ古帖ヲ裁スルアルヲ聞ハ千里ニ奔走シ  
 百方因縁人事請託死カヲ出シ泣懇必ズ請ヒ出  
 シテ後己ム貨産ヲ惜マズ人トナリ願ナリ是ヲ  
 以テ名山巨刹王公世家ノ秘觀ザル者ナシ而シ  
 テ藤ノ居韓ノ寓ト相距ル一里ナラズシテ此碑  
 ニ於テ戀想癡顛咲フベシ彼カ如クシテ一見ス  
 ルヲ得スシテ没ス豈物ノ遇合微ナリト雖氏亦  
 數ヲ免カレザルカ今張羽刻極ノテ精シ碑本ニ

疑ス、韓ヲシテ在ラシメバ則チ其喜當ニ如何ナ  
 ルベシ、而シテ其賞金幾何ソヤ、余因テ昔日ノ咲  
 話ヲ記シテ以テ其末ニ置ク

題米庵臨蘇帖後 原漢文 安積良齋

米庵翁カヲ南宮ニ得ル多ト為ス、而シテ遊刃ノ  
 及ブ所乃チ能ク獲帖ヲ臨ス、覽者必ズ以テ之ヲ  
 賞識スルアリ、何ゾ予カ言ヲ贅セン、但獲公ノ人  
 トナリハ則チ一言セザルベカラザルナリ、公ノ  
 忠義文章千載ニ照映ス獨リ朱子之ヲ議シ以テ  
 未敗ノ安石ト為ス過論ニ幾シ、然レ氏當時蘇文

盛ニ行レ、學者爭フテ之ニ模倣ス、蘇文熟シテ羊  
 肉ヲ喫スルノ語アルニ至ル故ニ朱子極力之ヲ  
 辨ス亦正學ヲ維持スルノ心ニ出ツ、後人或ハ聲  
 ニ吠ハ以テ之ヲ詆斥ス、惟公ヲ知ラザルニアラ  
 ズ并セテ朱子ヲ知ラザルナリ、朱子嘗テ公李公  
 擇ニ與ルノ書ヲ以テ門人ニ贈リ云フ、偶く東坡  
 ノ手簡墨刻ヲ得タリ、適々意ト會ス今一通ヲ往  
 ス、座右ニ銘スベキナリ又竹石ニ跋シテ云フ、東  
 坡老人英姿後凋ノ操堅確移ラザルノ姿竹君石  
 友庶幾ハ之ニ近カラシ、其推服スルヲ此ノ如シ、

蓋シ公ノ氣節文章固ヨリ自カラ千古磨滅スベ  
 カラザル者アリ、後人輒チ詆斥ヲ加フ、所謂蚍蜉  
 大樹ヲ撼スナリ、此卷ヲ閱シテ感アリ故ニ之ヲ  
 書ス

題跋通用

通用事物ノ外ニ超然タリ○聊カ其心ニ寓シ晚

歳ヲ憂フルヲ忘ル○其氣節高逸嘉スルニ足ル  
 者アリ○烏ツ敢テ倍々珍重ヲ加ヘザランヤ○  
 法書名画ヲ好ム一啻ニ飢渴ノ飲食ニ於ルノミ  
 ナラズ○千古ノ下其豪態ヲ想フ○書ヲ評スル

者當ニ自カラ之ヲ知ルベシ○覽者當ニ之ヲ詳ニズベシ○真賞ノ  
 得スベシ○覽者當ニ之ヲ詳ニズベシ○真賞ノ  
 士安ニ許可セズ○知音ニ非レハ妄ニ出サズ○  
 觀者聳動セサルナシ○觀者ヲメ心駭キ神愕ビ  
 竟ニ身ノ塵世ニ在ルヲ知ラザラシム○後ノ觀  
 者當ニ之ヲ珍トスベシ○人ヲシテ愛玩セシム  
 ○其下ニ坐卧三日去ル能ハズ○世ノ貴重ス  
 ル所ト為レ○某氏之ヲ傳寶ス今在ル所ヲ知ラズ  
 ○猶當世之ヲ傳寶ス○片紙尺素モ人藏シテ榮  
 ト為ス○珍重シテ之ヲ藏セザルハケンヤ○歐

陽公謂フ物長ク好ム所ニ聚ルト信ナルカナ○  
 歐陽公云フ所晚ニ書画ヲ知リ真ニ益アルナリ  
 ○此豈所謂駿骨ヲ市フテ千里ノ馬至ル者カ○  
 ○豈所謂集メテ大成スル者ニ非ズヤ○當ニ博  
 物洽聞ナル者ヲ待テ説ント欲スルナリ○亦其  
 一班ヲ見ルニ足ル○奚ソ帝雙壁ノミナランヤ  
 ○克ク箕裘ヲ紹ク○終ニ一籌ヲ遜ル○恐クハ  
 未タ鴈行シ易カラザルナリ○未タ完璧ト稱ス  
 ルニ足ラザルナリ○之カ為ニ岳澁セザランヤ  
 ○當ニ諸ヲ不朽ニ傳フマシ○今何ノ處ニ流轉

スルヲ知ラス○奴子ノ為メニ竊ミ去ラレテ之  
ク所ヲ知ラズ○但佳悪ヲ問フバシ必シモ真偽  
ヲ弁セズ○唯妙ニ唯肖スルト謂フバシ○書者  
ノ名字ヲ載セズ○真偽一見シテ決スベシ○真  
偽辨スルナシ○筆多シテ意足ラズ○多ク見ザ  
ルヲ恨ム○賤素敗レテ逸字多シ○稱シテ絶品  
トナス○誠ニ逸品ナリ○真ニ名品ナリ○妙絶  
無品ノ者ナリ○真ニ希世ノ珍ナリ○豪奪シテ  
去ル○人ノ為メニ豪奪セラル○未タ其甲乙ヲ  
定メ易スカラザルナリ○未タ輕シク軒輕ヲ置

ク可カラズ○未タ優劣シ易カラズ○後人ノ夢  
見ヲ得ル所ニアラザルナリ○余嘗テ兩本ヲ以  
テ字ヲ逐テ對校ス結體異ナルヲナシ○猶完璧  
新ノ如シ○遂ニ完璧ト成ル○余篤好ヲ以テ歸  
ラル○遂ニ舉ケテ以テ之ヲ遺ル○以テ其好ニ  
投ス○平生第一ノ希邁トナス○古人ヲシテ復  
起ラシムルモ亦當ニ退讓スバキノミ○其レ草  
々ニ觀ルバケンヤ○當ニ甲觀ト為スバキナリ  
○展閱スルヲ數番○披閱スルヲ一過○展玩ス  
ルヲ一過○披閱シテ自カラ娛ム○反覆諦觀ス

○香ヲ焚キ展對ス○後ノ覽者必ズ予ヲ以テ知  
 言トヤン○聊カ此ヲ書シテ欣賞ノ意ヲ表スト  
 云フ○謾リニ教言ヲ筆シテ以テ博雅者ノ論定  
 ヲ俟ツ○燕言ヲ筆シテ予見ルヲ獲ルノ幸ヲ識  
 ルス○此ヲ記シテ後ノ覽者ヲ俟ツ○吾カ言ヲ  
 然トスルカ○豈信ナラズヤ○妄意之ヲ評スル  
 一此ノ如シ○豈一笑ヲ免カレンヤ○某ノ一笑  
 ニ供ス○試ニ余カ書ヲ以テ之ニ示セ○嗟嘆ノ  
 餘聊カ其末ニ題ス○之ヲ書シテ以テ還ス○某  
 年某月某日借觀シ某書ス

附

書忠臣傳後

原漢文

安積良齊

赤穂諸士家國ノ傾覆ニ遇ニ相與ニ心ヲ間閑流  
 離ノ中ニ協セ遂ニ克ク其讐ヲ復ス是豈為アリ  
 テ然ラシヤ誠ニ以テ君臣ノ義天地ノ間ニ逃ル  
 、所ナシ而シテ復讐ノ擧ハ乃チ人情ノ已ムベ  
 カテガル所ナリ故ニ婦人孺子ト雖凡皆之ヲ稱  
 道シ赫々目前ノ事ノ如ク往々淚下ルニ至ル而  
 ノ世儒名教ヲ以テ任ト為ス者往々諸士ヲ詆テ  
 義士ニ非ストナス乃チ意見ノ之ヲ害スルナキ



カ、意見ノ偏、學術ノ正シカラサルヨリ起ル、而シテ議論、争度、反テ婦人、孺子ノ下ニ出ツ夫レ婦人孺子講學ノ何事タルヲ知ラス、惟其感スル所天性ニ出ズ、故ニ此懿徳ヲ好ム、乃チ世儒ノ上ニアリ是ニ於テ見レバ天理ノ公固ヨリ人心ニ具ル、皆以テ忠臣孝子タルマシ、而シテ意見ノ偏或ハ以テ之ヲ錮スルアリ、勝テ歎スバキカナ、浪華ノ處士深淵子、諸士ノ事ヲ録シテ忠臣傳ト曰フ、其書刊行諸士ノ死ヲ距ル僅カニ十数年、詢ニ實録タリ、但版本世ニ傳フル者絶タ少シ、閑其偶々書

坊ヲ過キ得タリ、予ヲシテ其後ニ題セシム、予雅ヨリ諸士ノ忠烈ヲ慕ヒ、之カタメニ寃ヲ雪ガント欲スル久シ、故ニ聊カ之ヲ一言ス

書俄羅斯圖志後 鹽谷宕陰

偉ナル哉俄羅斯ノ断ニ猛ナレヤ、其初メ國ヲ建ル、比達王微行シ他邦ノ船廠火器局ニ游ヒ、工藝ヲ講習シ國ニ還リテ傳授ス、佛蘭西ノ來侵スルニ方テ、底利王、國ヲ舉ケテ遷避シ、其都城ヲ空シ佛軍ノ深入スルヲ待テ、潜ニ回リ火ヲ縱テ之ヲ撃ツ、夫レ比達王ノ時、其臣應ニ材俊ニ乏シカラ

ガルベシ是之ヲ遣ス躬親カラ工人トナリテ以  
 テ業ヲ肆フ之ヲ瞿曇氏ノ山ニ逃レ以テ教ヲ開  
 クニ比スレハ勞倍シテ功獲ナリト謂フマシ、蟻  
 蛄手ヲ養ス人皆臂ヲ断チ以テ毒ヲ免ルベキヲ  
 知リテ猶豫忍ビサル者十常ニ八九底利王一朝  
 ニ其城闕宮室府庫倉廩ヲ擧テ燔テ灰塵ト為シ  
 之ヲ吝マズ晋人ノ朱雀折ヲ焚キ明ノ太宗ノ田  
 横諸島ノ民ト雖氏未々年ヲ同シテ語ルベカラ  
 不、上既ニ是ノ如シ故ニ其部落兒女ヲ生ム三四  
 歳即チ之ヲ親朋ニ託シ鞠育教誨シ、男ハ軍ニ從

フニ堪ユルニ至リ女ハ婚配スベキニ至リ始メ  
 テ之ヲ取ル者アルニ至ル事人情ニ近カラズト  
 雖氏而シテ陋ヲ變シテ文ト為シ、枉ヲ矯メテ直  
 ト為ス亦此ノ断決ナカルベカラサルナリ、夫レ  
 亡國ノ餘燼ヲ以テ崛起勃興、歐細ニ横亘ン延  
 テ墨利加ニ及ヒ、振古未曾有ノ國ヲ建テ以テ四  
 海ニ称雄ス凡ソ此鴻業偉畧唯漸乃チ成ル、吾滿  
 清ノ英夷ヲ待スル所以ヲ觀ルニ沿海ノ民戸當  
 ニ遷避スベキ者アリ、西洋器備當ニ仿造スベキ  
 者アリ、有識ノ士之ヲ上疏建白シ、或ハ書ヲ繕シ

テ之ヲ議シ、而シテ大臣穆韞阿耆、英輩ノ如キ、  
セズ納セズ、衰トシテ充耳ノ如シ、俄羅斯ノ風ヲ  
聞ク幾何ソ其茶然一シテ恨死セザランヤ

尺牘叙別採言

叙春別而今復春

去年花裡逢君別、今日花開又一年、懷君有感于韋  
蘓州之詩也、尚使馳情何日、把酒花前、追歡不負春  
光之景

答

客春別教今見桃花、復爛英方慨一年之濶、忽辱五

雲之領、猶觀面之温也、蒼頭行迫草卒、佈帛并申恭

候未一

叙夏別而今是秋

別教時南薰解愠、而今桂菊爭秋、英明河可望、耿  
于懷、新鴈過樓頭、聊附一聲、以潰暑、韶亮是幸

答

炎暑奉別、匆匆又屆三秋、英懷仰方、屢復翰箋、且審  
起居、納祉為慰、臨楮不勝馳恋、輒因翔便、効其區々  
伏、唯、垂亮幸甚

叙夏別而今是冬

溽暑時分袂轉瞬而六花飛矣此心馳仰朝夕不  
折梅逢使呵凍布裏笑賞小春僕心慰々

答

分携時酷吏作苦今且勝六漫空渭北江東不勝  
茲承雲牋飛下深慰鄙衷臨楮依々神馳左右伏惟  
始亮不贅

叙秋別而今是冬

秋初握別冠玉之姿今又詩吟白雪矣寸衷仰德奚  
則忘之寒鷹有聲少達微悃紅炉手擁早蓄春和馳  
恋々々

答

別誨于金風中今且瓊瑗砌地矣方茲渴仰忽辱朝  
須感愧交集草狀馳上記室并以為候統祈垂亮不

叙冬別而今復冬

去歲江南梅似雪今年國北雪如梅唐人咏也今  
今日之思乎予心誠屢不知君之念與同否走書奉  
候伏乞鑒存

答

雪裡分襟瞬息一周矣感時念德豈不尔思頃辱書

箋少慰渴滋茲達驛使聊復一枝知足下賞冷哀公  
情披樂令耳

叙數日之別

昨承教益不勝感喜別來經宿惟切崇瞻勒狀冒于  
鄙誠萬千塵冗不悉原亮荷々

答

日昨分袂深切思仰承蒙教諭感喜無涯勒狀奉復  
記室冗次不盡縷懷諸冀昭亮尚圖聚首

叙近日之別

頃造賓擇叨承誨益別來匝旬切馳情走併脩候并

達微忱尚冀面陳不盡心曲

答

近辱寵臨愧乏祇款茲承華翰喜慰交集對使馳情  
附申私悃尚容圖布不盡欲言

叙半月之別

半月不奉清誨下懷恒切仰瞻未審起居何似崑使  
奉候少佈私忱異日促膝談心方盡衷曲

答

奉別不覺半月正切仰德忽辱芳緘且知動止多福  
為慰併回私布下忱併候興居百祈台炤不盡所懷

叙半載之別

自違光霽，倏尔半載矣。瞻仰之心，曷勝。志夕走，价馳情并，肅奉候握手之期。定在肩睫，不悉瑣言。

答

不親梧竹之標，冀焚六番新矣。方厘仰德，忽拜雲箋。如之何，勿喜使旋重。此附候，不盡統惟，始登是幸。

版權免許明治十二年六月十四日

紀事論說文例中畢

